



アストンマーティン Vantage、 富士 6 時間耐久レースで再び表彰台に

- The Heart of Racing が日本開催の波乱のレースで逆転、2 位に
- アストンマーティン Vantage、WEC における 17 度目の表彰台を富士スピードウェイで獲得
- COTA 優勝のイアン・ジェームズ、ザック・ロビション、マティア・ドルディが鮮やかな 2 位で LMG3 クラスのタイトルレース争いに振り返り咲く
- Vantage、2026 年 5 度目の WEC 表彰台
- ダレン・ターナーとジェシカ・ホーキンス、ブリティッシュ GT 選手権ブランズハッチ戦の華々しい活躍で GT4 のタイトル獲得



2026 年 9 月 28 日、富士（日本）：

9 月 27 日の波乱の富士 6 時間耐久レースで、The Heart of Racing が鮮やかな反撃を展開して 2 位フィニッシュを決め、アストンマーティン Vantage に今シーズン 5 度目の FIA 世界耐久選手権（WEC）LMGT3 クラス表彰台をもたらしました。

サーキット・オブ・ジ・アメリカズ（COTA）で開催された前戦のローンスタール・マンで優勝したイアン・ジェームズ（英国）、マティア・ドルディ（イタリア）、ザック・ロビション（カナダ）は不可能にも見えた日本での 2 位獲得を果たして本選手権での勢いを維持し、それぞれ合計 62 ポイントで FIA 耐久トロフィーの LMGT3 ドライバー部門 4 位に浮上しました。残り 2 戦を両方ともポールポジションから優勝した場合には 52 ポイントの獲得が可能である中、首位との差は 14 ポイントです。The Heart of Racing はチームとしても 4 位で、首位とは同じく 14 ポイント差です。

当日のレース開始時には、このような結果は考えられないような状況でした。27 号車 Vantage は COTA 優勝で 18kg のサクセスバラストを積んでおり、さらに予選が雨で中止になったためにプラクティスのタイムでポジションが決められ、グリッド 16 番手でのスタートとなっていました。

ジェームズはこの状況にも屈せず、オープニングスティントで 3 位まで浮上しますが、残念なことにピットレーンペナルティを課せられ、ロビションのスティントでは 8 番手にまで順位を下げました。ドルディは最初のうちは順位を上げることができずにトップ 10 圏を争っていましたが、残り 1 時間に入ったところでマクラーレンとの衝突に巻き込まれます。このアクシデントで、第 1 コーナー入口のガードレール補修が行われる間、長時間にわたってセーフティカーが出動する事態となりました。ドルディも左リアのパンクに見舞われ、交換のためピットインしました。

30 分を切った時点で最後の給油のために再びピットインしたドルディは、同じタイヤでの続行を選択するライバルもいる中、さらに 3 個のタイヤを交換し、残り 20 分でレースが再開。ピットストップで順位を 2 つ上げて 8 番手に浮上したドルディは派手な猛攻で突進し、首位にわずか 1 秒超と迫ってフィニッシュしました。

ドルディは次のように述べています。「あれは楽しかったですね。最初は難しい状況でペースが出ず、少々バランスで苦労していました。その後マクラーレンとの接触がありましたが、大きなアクシデントだったので、相手のドライバーが無事で良かったです。こちらパンク以上のダメージはなく、幸運でした。どうにかピットに戻り、さらに最後のピットストップがうまくいって、いくつか順位を上げることができました。タイヤが新しくなっていたので、そのポテンシャルを活用でき、最後の方はなんとかスピードを出せました。優勝にかなり近づけましたが、セーフティカーまでの状況を考えると、2 位でも本当に満足できる結果だと思います」

かくしてアストンマーティンで最も成功を収めているレーシングカー Vantage は、富士における羨望の記録に新たな実績を追加しました。いまや Vantage は 5 世代にわたり、通算 17 の表彰台獲得を果たしています。これには 7 つの優勝も含まれ、そのうちの 2 つは 2 クラス同時優

勝です。WEC 富士戦で Vantage のドライバーが表彰台に立たなかったのは、4 度しかありません。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは、次のように述べています。「富士はアストンマーティンによい結果をもたらすことが多いように思います。今日は最も速い組み合わせではなかったかもしれませんが、再び富士山のご加護がありました！ Vantage は今年、GT レースの分野で高い競争力を発揮できることを何度も実証しています。それは WEC でも同じです。不運に見舞われ今年は 1 勝しか挙げられていませんが、シーズン後半にそのパフォーマンスに見合った結果が得られているのはうれしく思います。残り 2 戦というところで、タイトル獲得の目標が再び現実味を帯びてきています。The Heart of Racing チームの粘り強さ、精神、素晴らしいチームワークのおかげです」

Vantage GT3 は、ウルトラ・ラグジュアリーなロードカーの Vantage と同じメカニカルアーキテクチャを採用し、アストンマーティンが誇る信頼性の高い接合アルミシャシーをベースに、圧倒的なパフォーマンスを発揮する 4.0 リッター V8 ツインターボエンジンを搭載しています。

Vantage GT4 がブランズハッチでブリティッシュ GT 選手権の タイトルを総なめ、主役はターナーとホーキンス

9 月 27 日にブランズハッチで開催されたブリティッシュ GT 選手権のシーズン最終戦で、Vantage が GT4 クラスの総合およびシルバークップを含む全タイトルをすべて獲得し、ワークスドライバーのダレン・ターナーとアストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1 チームのドライバー・アンバサダーを務めるジェシカ・ホーキンスの両名がクラスチャンピオンに輝きました。

アストンマーティンで最も長くワークスドライバーを務め、ル・マンにおいて 3 度、ロレックス・デイトナ 24 時間レースでも優勝を果たしているターナーは、ブリティッシュ GT 選手権における 4 度目のクラスタイトル獲得を果たしました。ターナーは見事な防衛で、タイトルを狙うウィル・オートン（ホーキンスのチームメイト）をはじめとするライバルたちを退け、2 位でゴールしました。この成績によって、ターナーと、同じ Grange Racing with FSR のダン・ラベリーはシーズンを 143.5 ポイントで終え、MK Racing のホーキンスとオートンに並びました。

ターナーとラベリーは、オウルトン・パークとスパ・フランコルシャンにおける 2 つの GT4 総合優勝から、カウントバックによって総合チャンピオンの座を獲得しました。2 人は前戦のドニントン・パークで、既にブリティッシュ GT 選手権における GT4 の Pro-Am クラスのタイトルを獲得しています。ターナーにとっては 3 度目の Pro-Am タイトルです。Grange Racing with FSR も、初参戦となった今シーズンに GT4 のチームチャンピオンに輝きました。

オートンとともに GT4 シルバーカップを獲得し、ブリティッシュ GT4 総合タイトルにあと一步まで迫ったホーキンスは、2015 年のジェイミー・チャドウィックと 2018 年のフリック・ヘイグに続き、ブリティッシュ GT 選手権でクラスタイトルを獲得した 3 人目の女性ドライバーとなりました。

最終的に、アストンマーティンの現世代の Vantage GT4 は、2024 年のデビューシーズンに Forsetti Motorsport が獲得した 2 タイトルに加え、2026 年ブリティッシュ GT 選手権 GT4 クラスの 4 つのタイトルすべてを獲得する結果となりました。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-M5KFFsErm5gxaPpc>

アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって 1913 年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBXに加え、同社初のミッドエンジン・ハイブリッド・カーである Valhalla など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green. サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーと SUV のラインナップを持つというプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で 50 以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリー SUV の DBX は、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラゴндаは 1899 年に設立され、1947 年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020 年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ 1® チームとともに

にモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp